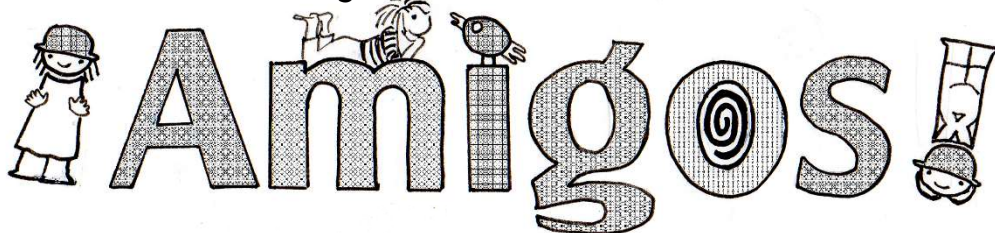


Club de Amigos de Latinoamérica de Osaka



NO.128

ともだち

2021年 12月

## 新代表の オチャンテ 村井 ロサ メルセデスです

CALOの皆さん、今年度から代表をすることになった、オチャンテ 村井 ロサメルセデスと申します。CALO活動20年目で代表をすることになりました。

少し簡単に私の自己紹介をします。

私はペルーのリマ市に生まれ、15歳の時に来日しました。中学校3年生に編入し、定時制高校を卒業しました。その後、京都ノートルダム女子大学を卒業、三重大学大学院を修了し、三重県で外国人児童生徒巡回相談員を経て、現在は桃山学院教育大学人間教育学部で准教授を務めています。

ニューカマーの子どもたちの教育研究を行っています。また、三重県を中心に多文化共生や国際理解に関わる活動に参加しています。

CALOとの出会いは2001年、大学1年生の時でした。数年前から副代表として、翻訳・通訳等、ペルーにいるスタッフとの連携を行っています。

今年度、梶田雅子さんからのバトンを受け継いで代表となりましたが、周りの素晴らしいメンバーの理解とサポートがあるおかげでコロナ禍でも事業を続けることができました。数年前からメンバーから事業の縮小の話が出ていて、代表を代わる前に算数ドリルの印刷事業を休み、絵本を中心とした活動を行うことになりました。今まで通りにペルーを始め、中南米の学校等に配布することを目標としながら、来日している（外国につながりのある）子ども達の母語習得への手助けになればと思い、スペイン語圏の子ども達にバイリンガル（日本語とスペイン語）の絵本であるCALOの絵本を提供していけたら、と思っています。これからも日本とペルー・ラテンアメリカの架け橋となれるように努力していきたいと思っています。どうぞ今後ともよろしくお願い致します。



大阪ラテンアメリカの会 (CALO) 〒562-0026 大阪府箕面市外院 3-12-6 (梶田方)

HP <http://calo.whitecafe.jp/>

FAX:072-728-6636

銀行口座:三井住友銀行 箕面支店 普通 0429270

郵便振替:00980-0-57563

# 今年の活動

CALO を支援してくださっている皆さんに、今年の活動について報告します。

コロナ禍になって、今年で2年目を迎えます。例会も対面でできた回数は少なく、オンラインでの実施、またはライングループで連絡を共有したりしました。

今年度の CALO の活動は、ペルーの学校での算数ドリルの配布と、リマ市の郊外にあるコマスの小学校で図書室を作ったのが大きなものです。（ロサ）

## 最後の「算数ドリル」配布 …一年遅れで実施…

＝コロナ禍で自宅自習用として使われて＝

ペルーの学校では、オンライン授業が続いています。子ども達が2020年、2021年も学校に足を運ぶことなく、オンデマンド型授業が実施されてきました。

そんな中、昨年春、いつものように算数ドリルをビブロスに注文をして印刷してもらいました。しかし、コロナ一年目には、ペルーの学校ではオンライン授業に慣れない、状況がはっきりしていない中、算数ドリルの配布はできませんでした。けれど、今年年度初めに4つの学校に2379冊の算数ドリルを配布することができました。

昨年配布できなかった算数ドリルを、お世話になっている印刷会社「ビブロス」のご厚意で会社に保管してもらっていました。



現地スタッフのジャネ

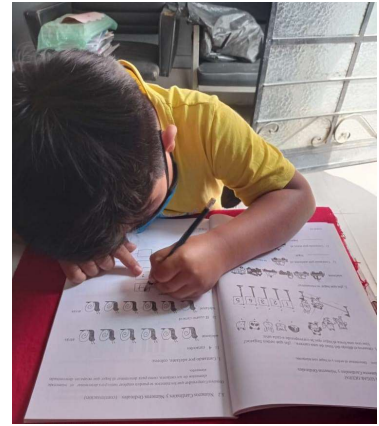
ットさんとゴンサロさんの協力でリマ市郊外の4つの学校、インデペンデンシアのアルベルト・ウルタド校、コマス校、エル・エルミタニョ校に配布をしました。また初めてペルーの中西部、太平洋岸アンカシュ県サンタ郡の港湾都市であるチンボテ市の孤児院にも配布することができました。

今までは学校に行って、子ども達に算数ドリルを直接手渡ししていましたが、今年は、現地スタッフが学校に持って行って、校長先生に渡しました。学校では対面授業を受けることができませんが、先生方が子ども達に届けたり、または取り

に来させたりしていました。学校側も十分に気をつけて、保護者が決められた日時に取りにくるように、といった対策が行われたとスタッフから聞いています。

算数ドリルを学校での対面授業では使用はできないけれど、家で自習用教材として使用でき、活用されています。

配布している学校の校長先生も、来年の3月新学期で対面授業をスタートできればと話していました。



現在ワクチン接種も進められているため、ペルー教育省は、2022年3月に学童が対面式の授業に戻る、としています。

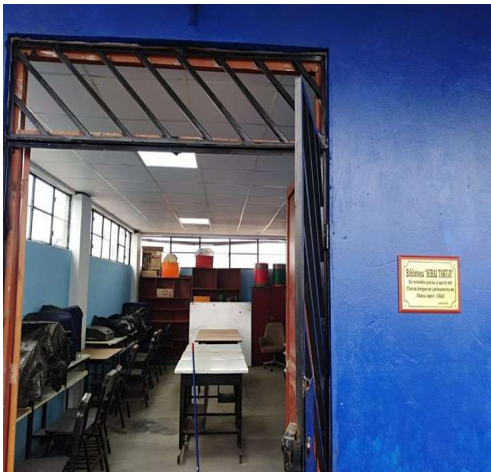


自宅学習として CALO の算数ドリルで勉強をする子どもたち

## 整備してすばらしい図書室に …コマスの小学校…

＝亡くなられたひとりの支援者からのご寄付も役立てて＝

前の号 (NO. 127) でもお知らせしていましたが、算数ドリルの配布とは別にずっと希望されていたコマスの小学校に図書室も作ることができました。これは長年支援してくださっていた H さんの奥さまからの寄付によって行うことができました。



これは、もともと学校の2階にあった教室を整備してドアと窓を作り、明るい教室が出



来上がりました。そこに棚と、予算より余ったお金で購入した様々な絵本を寄贈しました。

整備後、明るくきれいになった図書室の入り口の壁には寄付者の名前が書かれていました。

まだ対面での授業はできていませんが、教室に子ども達が戻ってくるころにはもっと整備されていることでしょう。

## 今後の活動の展望

＝CALOはラテンアメリカの生活困難地域の子どもたちの教育支援として 今、なにができるのか？＝

リマ郊外のインデペンデンシアにあるエル・エルミタニョ校の校長先生によると、2年間も校舎が使われていなかったため、お手洗いにダメージがあり、修理など設備を整えなければならないと言っていました。

新型コロナウイルスの影響で、2年間も登校できていないペルーの子どもたちの学力の低下、農村地域では中退するケースが多いなど、私立と国立による教育格差が大きな課題となるでしょう。

CALOとして現地スタッフの協力によって、地方の学校にも残りの算数ドリルと絵本の配布を計画しています。

現時点でペルー北部のサンマルティン地域にあるラマス州にも算数ドリルを配布できるよう現地スタッフのジャネットさんが地域の学校を紹介し、繋げてくれています。来年は算数ドリルの印刷はできませんが、続けて、様々な地域の学校に絵本を配布できるように計画していきます。ペルーでの対面授業が再開したら、日本から絵本を送るため、新しい内容の絵本の翻訳を少しずつ始めていきます。これから、おもに資金不足の理由で活動事業が縮小されますが、今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い致します。

### CALOの例会予定(2022)

1月22日 14:00～

2月19日 14:00～

これ以降の例会予定はHPにてご確認をお願いします。

HP: <http://calo.whitecafe.jp/>

Merry  
Christmas!!



### あとがき

\*今年もコロナに始まり、コロナで暮れる一年でした。\*しかしそんな中で、日本でもペルーでも世界中の子どもたちはどんどん成長しています。\*オンライン会議も含めて、CALOで今、何ができるかを考えています。\*新代表の若い力に期待して、皆様のご協力も引き続きよろしくお願い致します。\*佳いクリスマスと新年をお迎えください。(M)